

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790100244		
法人名	衣料法人社団 輔仁会		
事業所名	介護サービスセンター ゆいまーる松川グループホーム		
所在地	那覇市松川301番地		
自己評価作成日	平成22年11月11日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い空間や、長い廊下を利用した歩行訓練が楽しく行なえるよう、様々な工夫を凝らしている。</li> <li>・閉じこもりがないよう、居室へのテレビやポータブルの設置を控え、共有スペースで過ごすように、又他者との交流がもてるような支援を行なっている。</li> <li>・睡眠薬に頼らず、生活リズムを整える事で、夜間の良眠へつなげられるような支援を行なっている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo.ioho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100244&amp;SCD=320">http://www.kaigo.ioho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100244&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室		
訪問調査日	平成22年12月13日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は複合施設の3階にあり、医療その他のサービス事業所との連携や交流のしやすい環境である。オープンスペースの職員室からはリビングでの利用者の様子、居室の出入り等見守りができる。常に職員は利用者寄り声かけを行い、自己決定を促し利用者本位の支援に努めている。整容室には鏡台や椅子を設置し化粧品等を備え付け、利用者がいつでも身だしなみを整えられるよう配慮している。メーキャップ教室や地域ボランティアによる生け花教室を開催したり、日常的に幼稚園児等との交流も行っている。管理者は地域に働きかけ、場所を提供して祭りの見学や利用者も役割を決めて八百屋の朝市に参加し、地域の一員として住民との交流を図っており、回想法の一環にもなっている。管理者と職員は「自分が、もし利用者の立場なら」と言う視点に立ち、日々の支援に努めている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年指摘があった事を踏まえ、職員間で話し合い、基本理念に地域との関係を組み込む事で改めて地域を意識したケアに繋がっている。	理念は職員間で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえて見直し、共用スペースに掲示している。管理者、職員は毎週月曜日、朝のミーティングで唱和し、理念に基づいてサービスが行えているか確認する等、ケアの統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・朝市の開催 ・自治会へ加入。看板が施設敷地内設置されている。年2回の清掃への参加や、祭りへの参加など、相互協力を常に行っている。 ・買い物、地域の商店で行ったり、定期的に保育園児との交流会を行ったりしている。	利用者は日常的に散歩や買い物の時に地域住民と挨拶を交わしたり、自治会や地域の方に行事等で場所の提供をしている。事業所敷地内で地区行事の旗頭の見学や、八百屋の協力のもと朝市を開催しレジ係と呼び込みを利用者が行っている。又、利用者や地域の方が一緒に生け花やお茶会をする等、触れ合う機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内で月1回行っている家族を対象とした勉強会のチラシの配布を行っている。会に参加された方が、ホームの見学に来られる事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会において報告は行なっている。又、実際、委員会で挙がった意見が反映される事はある。	運営推進会議は、利用者、家族、市担当者、地域代表者等で構成され、議事録も整備されているが3か月毎の開催になっている。会議では事業所の状況や外部評価の結果、ヒヤリハットの報告がされている。委員から夜間を想定した防災訓練に地域住民の参加が必要との意見があり、訓練を計画し実施している。	運営推進会議は、年6回、おおむね2か月に1回以上となっているので、2か月毎に開催される取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に、市職員にも参加してもらっている。	市担当者とは、運営推進会議で事業所の現状報告や意見交換を行っている。責任者は定期的に市の窓口に出向き、折にふれ事業所の実状を知ってもらう等情報交換をしている。またFAXやメールでも連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様、マニュアルを利用しながら、ミーティングにおいて、独自の勉強会を行い、日々のケアの中で確認を行うかたちを継続している。	職員は「身体拘束をしないケア」についてマニュアルや年2回の研修、事業所内の勉強会で正しく理解している。事業所は3階にあり、出入りはリビンクに面しているエレベーターを利用しているが施錠等はしていない。利用時に「身体拘束禁止事項について」家族に説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングにおいて、課題を決め勉強会を開くことがあり、その際に虐待防止関連法を課題とし、勉強会を行った。		

沖縄県(介護サービスセンター ゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用はないが、必要な場合は、同法人内の権利擁護要員との連携を取れるような体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書を読みながら、一つ一つの項目に対し、十分な説明を行い、納得して頂いた上で契約を行っている。解約時も同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加してもらったり、不定期ではあるが、家族会(現在3回開催)を開き、その際に要望や意見を聞かせて頂いていて、実際に運営に反映されている。一連の報告は事業所の全体ミーティングで報告を行っている。	利用者の思いを日々の会話の中で聞き、表出できない利用者の場合は本人の様子や、家族から訪問時に聞くように努めている。利用者の「日めくりカレンダーでは解かりづらい」との意見で職員が手作りの大きい一日曆をリビングに掲示している。家族からの要望でトイレのペーパータオルをハンカチに変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは月1回の定例と、不定期で開く体制は変わらず、そこでの意見や要望の反映はできている。	ミーティング等で職員の意見を聞くように努め、職員の休憩を確保する為に一人ずつの休憩時間や、利用者の居室内でのつまずきや転倒防止を家族と相談し持ち込みの家具の配置を替える等意見を反映している。勤務体制や法人内異動に配慮して法人の職員を対象に事業所内でミニ喫茶を開き、利用者顔馴染みの関係作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価の実施。有資格者の処遇改善を検討し、契約から正職への移行も行い、やりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や、その他の研修へ参加できるような機会の確保(勤務調整等)を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム独自ではなく、事業所全体として、交流やネットワークづくりを行っている。情報交換の場を設けたり、施設見学を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談申し込みを受け、何回か自宅の訪問を経て、生活歴等を、雑談を交えながら聞きだせるような相談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少なくとも2回以上の面談を行う。1度に全てを聞き出そうとせず、数回の面談によって困っていることや、要望を話して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅への訪問の際や、見学を兼ねたホームでの相談の際には、いずれも話しやすい雰囲気作りにも努め、何を必要としているのか、多角的視野での見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食卓で摂ったり、一緒にベッドで添い寝をしたり、いつでも話のできる距離を保つ事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族構成を把握し、入居者のみの話題にとどまらず、時には子育ての事や、趣味の事など共通の話題で雑談をしたりして身近に感じて頂けるようにしている。又、行事の際には参加はもとより、準備も家族にも手伝ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から、友人や、近所の方が気軽に訪ねて来れるような雰囲気作りを心がけ、来られた際にはゆっくり過ごしていただけるよう、お茶やお菓子をお出している。又ドライブの際は以前住んでいた場所や、慣れ親しんだ場所を通るなどしている。	利用者、家族との日常の会話やアセスメントで、馴染みの人や場所を把握している。利用者が買い物をしてきた商店街にでかけたり、家族の協力で通っていた美容室に出かけられるよう支援している。また、正月や旧盆は自宅で過ごされるよう、戻られてからのフォローも説明し家族に外泊等を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にテレビを置かず、部屋にこもる事が無いように、常に皆で過ごせるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、時々電話で様子を伺ったり、デイサービスに面会に行ったりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、表出する感情や言葉などからの希望や意向の把握に努めている。	利用者との日々の関わりの中で、言葉や表情から思いや意向の把握に努め、困難な場合は家族から情報を得て管理者、職員で話し合っている。事業所近くに住んでいた利用者が、「自宅を見ると安心する」のでいつでも自宅が見えるよう、居室の場所を配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスの際やケアに行き詰った場合は、必ず入居前のアセスメント表を見たり、家族が来られた場合に、再度質問をしたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方に関しては、それぞれのペースで過ごして頂いている。心身状態については記録する事で把握を行っている。又、一人ひとりの力の把握は日々の生活の中から見極めを行い、できることの模索は常に行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングをケアマネと担当者そして家族で行っている。その場で出た家族や本人の思いは、プランに反映するようにしている。	介護計画は利用者や家族から意見や情報を得て作成している。家族から「自分でできる事は自分で」、「歌が好きなのでカラオケを多く」等の意見や「地域の方々との交流の機会」等を計画に反映させているが、モニタリングは3か月に1回実施している。計画は定期的に見直し変化が生じた場合は臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は、個別に午前、午後、夜間と記録をし、気付いた事に関しては、申し送り帳に記録し、朝と夕の申し送りの際に読み上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在検討中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪、地域の方による読み聞かせ、さき織り教室、行事の際にご協力頂いたり、主にインフォーマルの活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居者9名が、同敷地内にあるクリニックの医師を主治医とし、定期受診や、定期健康診断、緊急時の対応をしてもらっていて、事業所としても常に連携を取りながら入居者の健康管理を一緒に行っている。	全利用者が本人、家族の希望するかかりつけ医を家族対応で受診している。緊急時や家族が受診に同行できない場合は職員が対応し、診療情報は家族と共有している。情報提供や送迎を行う等、他科の受診も家族と協力し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、緊急時は他部署の看護師が対応できるように、日頃から情報の提供を行い、健康管理においての連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も馴染みの関係が維持できるように、まめに面会を行っている。入院中は、医師や看護師から様子を聞いたり、退院時のカンファレンスに家族と共に同席したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は無いが、必要な場合は、同法人内の病院や施設との連携体制はできている。	重度化や終末期に向けて事業所の統一した対応方針を家族や職員等関係者で共有している。家族とも早期から話し合いを持っており、事業所内で看取りの事例はないが、入院等に関しても医療関係者と連携を図り、状況変化に応じて段階的に話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救急救命の研修会を定期的に行っている。又独自ではビデオにて定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜それぞれを想定しての訓練を行っている。訓練の際は、事業所内の相談センターが行っている体操教室に通われている地域の方にもご協力頂いている。	避難訓練は年2回、昼夜を想定して行われ、利用者と職員とともに参加している。また、避難場所の確保や地域との協力体制も摂られ、備蓄等に関しては法人で準備している。非常口、避難経路は2か所あるが、現在の所、1か所のみでの訓練しか行われていない。	火元やあらゆる災害状況を想定し、現在訓練に使用されていない非常口や避難経路からも、災害時に安全に利用者を避難救出できるよう訓練等の早急な対応が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの中で出てくる言葉使いに対して、職員間で注意し合う等して、常に意識するように心掛けている。	職員の不用意な発言等について処遇・接遇検討会で意見を出し合い、日頃のケアの振り返りを行い改善している。普段は「さん」付けて呼ぶ利用者でも不穏時には本人の好みの愛称で呼ぶ事で落ち着く事もあり、常に個々の利用者の気持ちにそった対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から、希望や思いを聞きだせるような話しかけを意識し行っている。又個人の価値観に偏見を持ち、自己決定の阻害がないよう、ミーティングの項目挙げ、話し合えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般を、その人の主体性や自主性によって決定できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える事で生活にメリハリがつくように、まめな支援を行っている。又、浴室に化粧品を置き、いつでも自由に整容ができるような環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握は、定期的な嗜好調査や、職員が食事を一緒にとる事で、ある程度できている。 食事は同法人内の老健施設からで、調理はほとんど行っていないが、配膳準備、食後の片付けも入居者と職員で一緒に行っている。	食事は同法人施設の厨房で調理され、利用者が職員と一緒に当番制で受け取りに行っている。利用者は体調や力に合わせ、お膳拭きや小鉢の盛り付け、下膳、食器洗い等を行い、食卓も利用者と職員と一緒に囲んでいる。又、利用者の嗜好調査を定期的に行い献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは毎回行っている。水分は好きなもので、飽きずに摂取できるように、バリエーションを変えている。又水分でむせたりする方には、とろみ剤を使用して、安心して摂ってもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は、洗浄剤につけるよう促している。又、義歯の状態の変化等はその都度家族に報告し、歯科受診をすすめたり、時には訪問での受診の支援も行っている。		

沖縄県(介護サービスセンター ゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック用のボードを各トイレへ設置し、排泄のパターンを把握した上で、定期的な声かけを行ったり、日中は綿の下着の着用を勧めている。又基本的にはポータブルトイレの使用は行わず、トイレへの誘導で対応している。	排せつは昼夜ともトイレを基本とし、日中は綿パンツを、夜間は利用者の状態に合わせてトレーニングパンツを使用している。失敗した時は周囲に気付かれないようさりげない対応で、個々の利用者の尊厳を大切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎夕食時に寒天ゼリーを提供している。又手作りの野菜ジュースや、果物ジュースをおやつ時に出したりしている。日中はなるべく動いてもらうように、1日2回の体操と、週3回の歩行訓練、屋内・外の散歩をプランに組み込んだり、動く機会を多くすることでの対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は本人が入りたい時に入ってもらような支援を行っている。	浴室はシャワーと浴槽を完備し、利用者の希望で入浴日や時間を選択している。全て女性利用者で同性対応は困難な時もあるが、入浴前に必ず利用者の同意を得ている。拒否の場合は無理強いせず曜日や時間帯等を変更して対応し、整容室には化粧品を備える等の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間はそれぞれの生活習慣によって異なるので、その人に合わせた就寝時間入室できるような支援を行っている。休息に関しても、食事時間にかち合うことがあっても、食事時間を少し遅らせたりして対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回薬局から出される説明書を保管している。入居者各々の担当職員で、薬のセッティングを行わない、担当は2月毎に変え、職員全体での入居者の服薬に関する把握ができるようにしている。又、誤薬防止については、ダブルチェックにて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントから、又日々の生活から、できることの見極めを行い、その力を発揮していただけるようなケアを心がけている。好きなことを行う事への制限はほとんどせず、本人の希望ならば、夜のドライブを行うなど気分転換になれるような支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最低でも週1回のドライブと、外気に触れる機会を作る目的で、施設内の畑の水撒きを行っている。生まれ育った地域へのドライブも行い、遠方へのドライブの際は、家族も参加してもらっている。	利用者一人ひとりの生活歴等を把握し、商売をされていた利用者や店のあった場所へ出かけたり、旧の1日、15日は利用者の自宅の仏壇に手を合わせに帰る等個別に支援している。また、花見や浜下り等は皆で出かけたり、家族の協力を得て遠出のドライブや、ふるさと訪問等の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面は基本的には家族管理でお願いしている。現金の所持をしている方が買い物を行った場合は、買った物の把握を行い、時にはレシートを預かる等してトラブルのないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるような場所へ設置していて、いつでも掛けられるようにしている。遠方の家族へは、手紙やはがきを書いてもらい、一緒に投函まで行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に過ごしやすいように配慮はしている。季節感が味わえるように、一緒に生け花を飾ったり、行事に合わせてホーム内を飾ったりしている。	共用空間のリビングは、食事やレク等で多目的に利用し、ソファを配置して利用者が思い思いに寛げるよう工夫している。利用者、職員と一緒にクリスマスツリーの飾り付けを行ったり、玄関の飾り台にはサトウキビや生の小芋をカゴに飾り、利用者との共通の話題づくりに活かしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を広めにとっていて、お子さん家族が数人で来られても大丈夫ようにしている。家族の写真を飾ったり、自宅で使用していた家具を持ち込んだり、お線香をたかない条件での仏壇の持ち込みをされたりして、居心地よく過ごせるようにして頂いている。	利用者の自宅から使い慣れた家具や家族写真、位牌等を持ち込み居心地よい居室づくりを工夫している。沖縄芝居の好きな利用者の為に居室入口に琉歌や芝居の写真等を貼ったり、居室を間違え利用するには家族等と話し合い、本人が迷わずに居室に行けるよう表札等になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっていて、居室までの通路はくまなく手すりの設置を行い、一人でも部屋へ行き来できるように配慮している。トイレもリビングに一つと教室側に二つ設置している。		